



2月号

平成29年1月31日

横浜市立東中田小学校

校長 芝 フク代

TEL.802-0500 FAX.801-4089

WEBページ <http://www.edu.city.yokohama.jp/sch/es/higashinakada/>

立春の卵

副校長 岩間 洋

校庭の梅の花が開花し、その香りを漂わせる候となりました。桜の枝のつぼみもふくらみ、春の到来を待ち望んでいます。厳しい寒さの中にも、日一日と春の訪れが感じられる時期になりました。

この時期、常緑樹以外の木々は葉を落とし、学校中の敷地の風景は鮮やかさに欠けませんが、よく見ると桜には小さいつぼみがついていることに気が付きます。

このつぼみは**冬芽(とうが)**といい、冬を越して春に花となる**花芽(かが)**と葉になる**葉芽(ようが)**に分けられます。この芽は夏の終わり頃からつくられ、冬の前に冬芽となります。硬いつぼみは冬の寒さや乾燥から身を守り、さらに冬芽の内側では春に美しい花を咲かせるためにゆっくりと準備している姿が伺えます。

冬の寒さに耐え、着々と春の準備をする冬芽のように、子どもたちとこの1年間の成長を振り返るとともに、1つ上の学年になる意識も感じさせ、新たな学年に向けて支援していきたいと思えます。

2月に入ると3日が節分、4日が立春と暦の上では春を迎えます。中国で、「**立春の日には卵が立つ**」ということが書かれていた古い書物が発見され、今から70年ほど前にこの話を聞いた人々が、立春の日には卵を立てることを試みました。

すると、立つはずがないと考えられていた卵が立ったのです。この不思議な現象に当時の人々は驚き、「なぜ卵が立つのだろう。」「立春とどう関わりがあるのだろう。」「太陽と関係があるのか。」などといろいろな意見が出ました。

その後、当時の物理学者であり、随筆家でもあった中谷宇吉郎博士は「**立春の卵**」という随筆を著しました。その著書の中で「卵は立春に限らず、いつでも立てることができる。新鮮な卵の表面にある3点以上の出っ張りを足として卵を支え、卵の重心をそこに落とすべく、少しだけ根気強く作業すれば生卵であっても、ゆで卵であっても立つのである。」と書いています。ご家庭でも挑戦してみたいはいかがでしょうか。

一昨年に映画が公開され、昨年末にテレビでも放映された「**ビリギャル**」(学年ビリのギャルが1年で偏差値を40上げて慶應大学に現役合格した話)の中でも、卵を立てるシーンが出てきました。(クララの卵)

成績が伸びず落ち込んでいる主人公の高校生に対して、塾の講師が卵を立てるところを見せ、「可能性があるということを知っておくことってすごく大事なんだ。」と励まし、自信を無くして慶應大学進学への夢をあきらめかけていた主人公に再び意欲を取り戻させるシーンでした。

それまでずっと卵が立たなかったのは「卵は立たないもの」と誰もが思い込んでいたからであり、立たないと思っていたから誰も挑戦しようとは思わなかったからです。

物事、最初から「無理だ」「できない」とあきらめてしまえば何も解決しないし何もできません。まずやってみることに、挑戦することの大切さを改めて教えられました。